

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 期間を通して、高気圧が日本の南から西日本や東シナ海に張り出す。
- 30日は、高気圧が日本の東に移動する。
- 7月1日から4日は、高気圧の縁に沿って湿った空気が北日本や東日本に流れ込む日が続く。

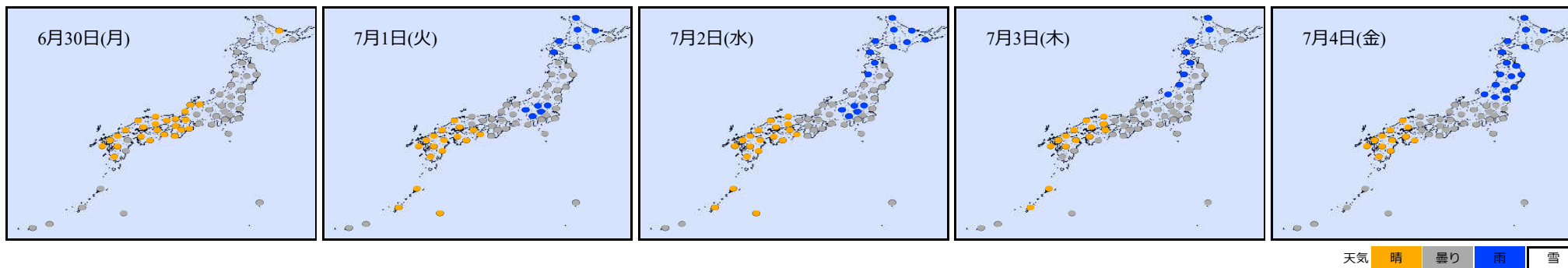
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

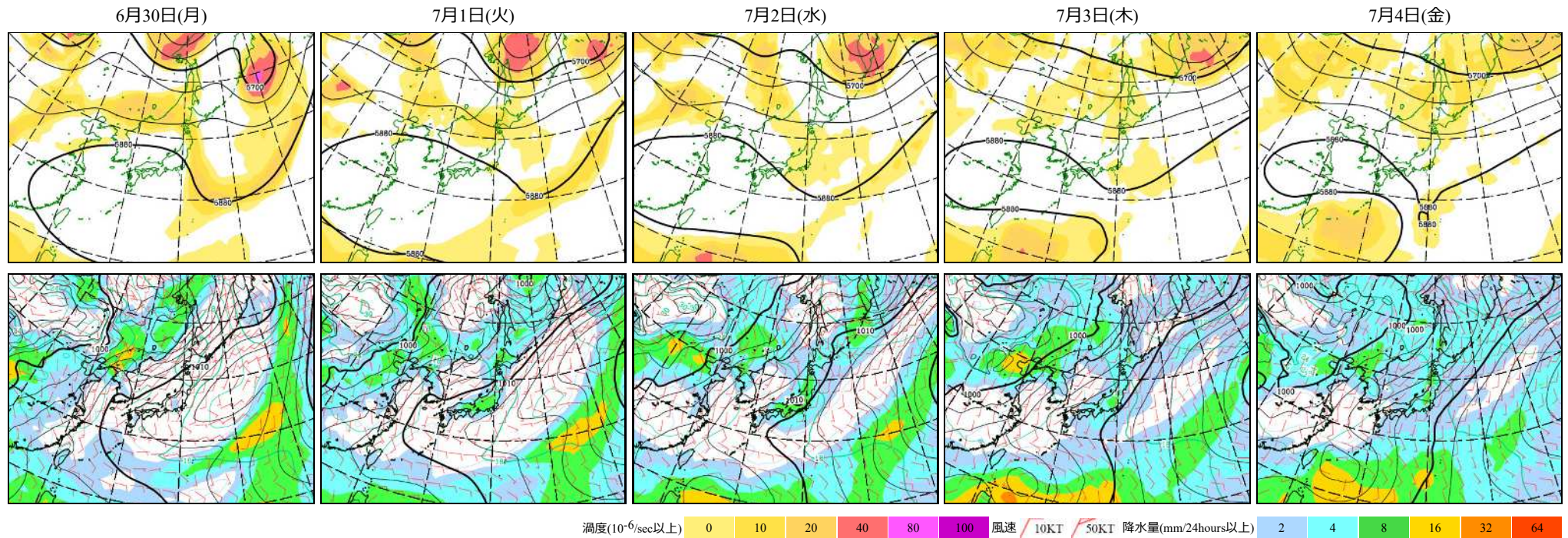
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

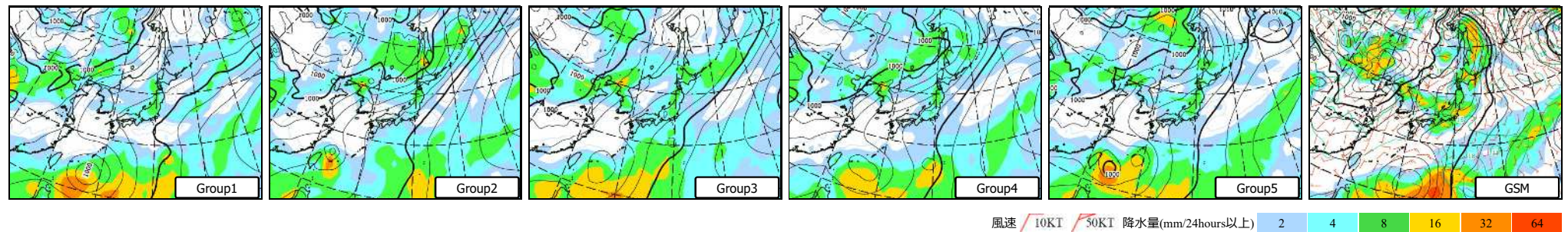


- 北日本は、雲が広がりやすく、7月1日から4日にかけて雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れまたは曇りとなる。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月4日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7月2日頃までは大きな初期値変わりはない。3日は沖縄の南に熱帯じょう乱が北上する予想になった。
- 初期値変わりしているモデルもあるが、2日頃まではモデル間の差は小さい。3日から4日にかけてGSMとECMは北日本をトラフが通過する予想だが、NCEPはトラフが浅い予想となっている。
- ENSでは4日に先島諸島付近で熱帯じょう乱が発達すると予想するメンバーが2割程度あり、ENS平均では先島付近に熱帯じょう乱が予想されている。他のモデルの予想との差が大きくなっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- FEFE19では4日に先島諸島付近に熱帯じょう乱が予想されているが、他のモデルとの差が大きく不確実性が大きい。熱帯じょう乱が先島諸島付近に進む予想はサブシナリオとして考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。